

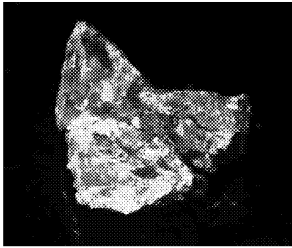
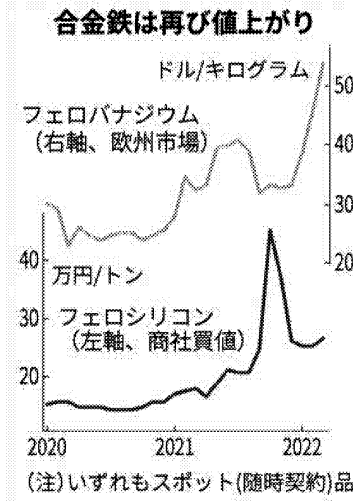
バナジウム3年ぶり高値

製鋼用レアメタル ロシア産供給懸念

鉄鋼生産の添加剤として欠かせない金属類が軒並み高騰している。レアメタル（希少金属）のバナジウムは約3年ぶりの高値圏になった。ウクライナ情勢の緊迫化でロシアからの供給懸念が高まったためだ。脱酸素剤に使うフェロシリコンなども高い。鉄鋼業界はロシア産の代替調達先を模索するが産地は限られ、価格上昇に拍車がかかっている。

代替産地は限定

添加剤は主に、製鋼の過程で鉄鋼と化学反応させ、酸素を取り除くなどに成分を調整し、鋼材の強度を高めたり品質を整えたりするために使う金属類だ。希少な金属が多く、供給国に限られる。日本の鉄鋼業界は多くを輸入に依存している。



フェロバナジウムには需給の逼迫懸念が台頭

などに使うバナジウムは、指標となるフェロバナジウムの欧州市場のスポット(随時契約)価格が3月中旬時点で1キログラムあたり約2割を占めている。欧米の制裁強化でロシアからの物流が停滞。ロシアから原料を輸入してフェロバナジウムを生産するチェコなどは、現時点では大きな支障はないが、今後原料供給が停止するとの懸念が台頭している。

欧州を中心に一部の需要家にはロシア産を避ける動きも始めている。専門商社アドバンストマテリアルジャパンの松村洋合金鉄部長は「ウクライナ侵攻による供給停滞懸念から価格が上昇し始めたところにロシア産の買い控えて代替調達先を求め動きなどが重なって値上がり加速した。当面は高値を警戒している」と話す。

シリコン再上昇

製鋼の際に脱酸素剤として使うフェロシリコン

も、スポット品の日本の商社買値が3月上旬時点で1ト26万5千円前後と前月から1万5千円(6%)上昇。昨年後半に中ロの電力不足に伴う急騰と反動安があったが、足元は再び上昇局面に入り、4カ月ぶりの高値をつけた。

年間40万〜45万ト程度とされる日本のフェロシリコンの輸入量のうち、3割にあたる12万〜13万トをロシアに依存している。

日本の鉄鋼商社によるロシア産のフェロシリコンはスイスにある販売会社などを通じて現地で調達することが可能だ。ただ欧州勢による

ロシア産の回避の動きから、スロベニアやブラジルの電力不足に伴う急騰、マレーシア産に代替と反動安があったが、足元は再び上昇局面に入り、4カ月ぶりの高値をつけた。

ロシア産の回避の動きから、スロベニアやブラジルの電力不足に伴う急騰、マレーシア産に代替と反動安があったが、足元は再び上昇局面に入り、4カ月ぶりの高値をつけた。

ニッケル・合金鉄の高騰

原料に使ったニッケルや合金鉄のこれまでの値上がりから、ステンレス鋼板の取引価格は昨年半ばから歴史的な高値圏にある。足元の一段の原料高でステンレスメーカーはさらに値上げに動く公算が大きい。一般流通(店売り)市場ではこれまでのメーカー値上げの未転嫁分の浸透も含め、上昇基調が強まっている。

ステンレス鋼板 値上げ基調強く

原料高でステンレスメーカーはさらに値上げに動く公算が大きい。一般流通(店売り)市場ではこれまでのメーカー値上げの未転嫁分の浸透も含め、上昇基調が強まっている。